

富山のデザイン情報誌

# offer

<https://www.toyamadesign.jp/>

vol. 46

04 特集

## とやまD'DAYS2018

会うことで生まれるデザイン

「気づきとデザイン」

12 大学連携デザイン人材マッチング事業

## とやまデザイン・トライアル

14 富山のデザイン発進力強化事業

## 「越中富山 技のこわけ」プロジェクト

16 アジアデザイン交流事業

## 台湾デザインセンターとの連携事業

18 クリエイティブデザインハブ新事業創出支援事業

未来研究会・プロジェクト会議

## 人の心を動かすデザインとCMF

20 富山県商品開発研究会

ミラノサローネ2018

## 最新トレンドから読み解く新潮流

講師：高橋 美礼

21 富山プロダクツ選定事業

## 優れた富山ブランドとして今年度30点を選定

25 富山デザインブランド販路開拓事業

## 富山ブランドを支援するための販路開拓への試み

26 2018(平成30)年度事業報告

※敬称略



### COVER

デザイナー

**平野 暉** Hikaru Hirano

1992年黒部市生まれ。富山大学芸術文化学部デザイン工芸コースにてプロダクトデザインを専攻し卒業の後、一般社団法人芸文ギャラリーに就職。ギャラリーの運営のほか、展覧会の企画や運営、その他もろもろのデザインなどを務める。



表紙コンセプト／ふと日常の中で、アレって実はそうだったんだ。と気づくこともあるけど、自ら事象を解明することで新たに気づけることも多くある。「気づき」を迎えに行くトレーニングを普段から心がけていきたいと思い、デスク上に転がるガムテープを手にとった。じっくりと虫眼鏡で細かく観察していくうちに様々なものが見えてきて、それを画面上に再現してみた。



# TOYAMA D' DAYS 2018

A design produced by encounters

2018  
8.27 — 10.10  
MON WED

とやま  
D'  
DAYS  
2018  
会うことで生まれるデザイン  
テーマ  
気づきとデザイン

多分野のデザイン専門家が富山に集結。  
フォーラム、企画展、  
ワークショップ、産業ツアーなど  
多彩なイベントを開催。

「とやまD'DAYS」は、全国のデザインに関わる人々に富山のものづくりやデザインに関する取り組みを知ってもらうとともに、それぞれの交流を促すことで新たな可能性を生み出そうとの目的で開催されました。8月27日から10月10日の期間中には富山県総合デザインセンターを主な会場として、フォーラムや企画展、ワークショップ、産業ツアーなどの多彩なイベントが行われました。

## とやまD'DAYS 2018 プログラム

期間中は、企画展「気づきとデザイン」の開催をはじめ、セミナー・ワークショップなどからなるオープニングイベント、記念フォーラム、フィールドワークや多彩なゲストを招いたディスカッションなどからなる「オープンHUB」、富山県内のデザイン・ものづくり拠点を巡る「とやまD'DAYSツアー」などが実施されました。

## オープニングセレモニー

[日時]2018年8月27日(月) 10:00~10:30  
[会場]富山県総合デザインセンター 1F 展示室

石井隆一富山県知事をはじめとする関係者が出席してのオープニングセレモニーおよび富山県総合デザインセンター所長・桐山登士樹による企画展「気づきとデザイン」の展示解説が行われました。



## 日産コンセプトカー展示発表セレモニー記念イベント

高岡の先進的なものづくりをアピール

## 日産コンセプトカーの展示始まる

[期日]2018年7月2日(月)

[場所]富山県総合デザインセンター 1F 展示室

2018年7月2日から、富山県総合デザインセンター展示室の産業観光展示コーナーでコンセプトカー(ショーカー)の展示が始まりました。展示されるのは日産の電気自動車「TEATRO for DAYZ(2015年発表)」と高級車ブランド「INFINITI ESSENCE(2009年発表)」の2台。日産およびその子会社である(株)クリエイティブボックスがデザインし、製作は高岡オフィスパークに入居する(株)ウイン・ディーを含む日南グループ(神奈川)が担当しました。展示発表のセレモニーには石井隆一知事が出席。「高岡で先進的なものづくりが行われていることを多くの人に知ってほしい」と挨拶し、パーク一帯を産業観光の拠点とする考えを示唆された。引き続き、日南グループ代表・堀江勝人氏、クリエイティブボックス・ゼネラルマネジャー・戸根隆裕氏による講演、富山県総合デザインセンター所長・桐山登士樹を交えてのトークセッションが行われました。



## 2台のコンセプトカーについて

(株)クリエイティブボックスゼネラルマネジャー兼  
日産自動車(株)グローバルデザイン本部デザインビジネスマネジメント部長  
戸根 隆裕

「INFINITI ESSENCE」は日産が2009年に発表した高級スポーツカーのコンセプトモデル。1989年に登場した高級車ブランド・インフィニティの20周年記念モデルとして開発され、同ブランドのアイコンとして位置づけられた車です。「ロングノーズ・ショートデッキ」のプロポーションに、欧米のプレミアムカーにはない「日本的」なデザインのエッセンスを詰め込みました。例えばCピラー(後部座席の窓柱)の特徴的なクレセント(三日月)カットもその一つで、今日のスカイラインやインフィニティにも反映されています。他にも、ルイ・ヴィトンとコラボレーションした3つのケースを格納したトランクなども話題になりました。

もう一台の「TEATRO for DAYZ」は、2015年に発表した軽の電気自動車。若年層をターゲットに想定した車で、コンセプトは「コミュニケーション」。インテリアはすべて白で統一し、プロジェクトマッピングの技術を用いシートやインパネなどに映像表示できる機能が組み込まれています。車内での映画鑑賞なども可能です。「コミュニケーションツールとしての車」をテーマとした新提案です。

今回展示することになった2台のコンセプトカー製作は、日南グループにお願いしました。限りなく本物に近い仕上げになっていますが、プラスチックが多用されているコンセプトカーには耐久性がありません。しかし製作から9年も経過しているにもかかわらずINFINITI ESSENCEは当時のままの状態を保っている。その姿は、日南グループの製作技術の高さを雄弁に物語るものとなっています。

## コンセプトカーに詰められた モノづくり技術のエッセンス

日南グループ 代表  
堀江 勝人

神奈川県にAV機器や家電などの「試作」を専門とする(株)日南工業を創業したのは1970年のこと。以来、試作を基幹事業としながらもプロダクトデザインやモデリング、機構設計、電気設計などにも業務を広げ、今日では製品開発に係るプロセスをトータルにサポートする「開発総合支援企業」の業態を構築しています。東京、神奈川、宮崎、愛知などに拠点をもち、グループ企業は国内7社、750人の陣容となっています。高岡オフィスパークに入居している(株)ウイン・ディー(2000年設立、社員70人)もグループ会社の一つです。

お客様である自動車メーカーや情報家電、産業機械などのデザイナーと一緒に、デザイン開発からワーキングプロトタイプ製作、試作金型による成型試作品づくりなどに取り組んでおり、我々のモノづくりの技術の集大成のひとつが、コンセプトカーの製作なのです。スケッチワークから3Dモデリング、粉体造形や光造形を駆使した立体モデル製作、そして内装やインパネ、電装なども完備したコンセプトカーには、先進のデザイン・造形技術とともに経験に裏付けられた職人技が詰め込まれています。

モノづくりの手法は時代とともに常に変化しています。昔から変わらない人間の技と、最新鋭の機械や技術を上手く融合させながら、これからも開発総合支援企業とお客様の要望に応え続けていきたいと考えています。



8/27 Mon

記念セミナー

## 二人が挑むテキスタイルデザインの世界

鈴木マサル × 氷室友里 モデレーター:川上典李子

日常生活と密接な関わりを持つテキスタイル。衣服やインテリアなどはもちろん、図案や手触りを生かして、その活用は大きく広がっています。世界的なファブリックメーカーのデザインも手がける鈴木マサル氏と新進気鋭のテキスタイルデザイナー氷室友里さんが挑むこれからのテキスタイルデザインとは。ライフスタイルの変容とともに変わりつつある「テキスタイル」の世界を、川上典李子さんの司会でお話いただきました。



- 川上** テキスタイルという素材に対し、鈴木さんは「プリント」、氷室さんは「織」を中心に、それぞれ異なるアプローチをされている。
- 氷室** 人を楽しませたい。驚かせたい。はさみで切って遊べる生地や、見る角度によって模様異なるモーションテキスタイルなど、テキスタイルの常識にとらわれずいろんな方向からアプローチしていきたいと思っている。
- 鈴木** デジタルプリントの登場で、使える「色数」は自由になったが、私の場合「制約」があったほうが良いと思う。工夫が生まれるから。
- 氷室** 制限が、気づきや工夫を生むことになるし、制約がある方が、自由になれる。
- 鈴木** 人類はテキスタイルを百年後も着ているだろう。人に触れ、身近にある存在。色や柄は、人の感情を変化させる力を持っている。そこに希望があると思う。
- 川上** 「心」に作用するデザインの重要性について考えさせられた。エトレ・ソツトサスの「愛する人に花を贈るようにデザインする」という言葉を思い出した。では、今の時代に、私たちはそのことをどう実現できるのだろうか。鈴木さん、氷室さんの活動には、多くのヒントがあると思う。

### テキスタイルデザイン・ワークショップ

## 新しい富山のテキスタイルを創造する

鈴木マサル × 氷室友里 モデレーター:桐山登土樹

ふたりのデザイナーが協働して、新しい富山のテキスタイルデザインの制作に挑みました。氷室さんがデザインのモチーフをワークショップの参加者の言葉から抽出し、鈴木さんがそれをリアルタイムでPhotoshopを使い図柄化。目の前で展開する絶妙なコラボレーションとテクニックに、参加者は魅了されていました。



鈴木 マサル  
テキスタイルデザイナー  
東京造形大学教授



氷室 友里  
テキスタイルデザイナー



川上 典李子  
デザインジャーナリスト



8/27 Mon

10/10 Wed

企画展

## 「気づきとデザイン」

富山県総合デザインセンター1F 展示室

長いものづくりの歴史によって集積され、かたちづくられてきた「技術」「知恵」「素材」「風土」は、同時に“次世代産業を創造するDNA”と捉えることもできるでしょう。伝統や風土を、視点を変えて見ることで得られる「気づき」の中に、次のイノベーションにつながる可能性があるのではないのでしょうか。会場には、富山ゆかりの企業やプロジェクトが手がける、金属やプラスチック製品、先進的な繊維製品、コンセプトカーのモックアップ、伝統工芸製品などを展示。多様な視点から「気づきとデザイン」についての考察が行われました。





9/21 Fri

記念フォーラム/The 1st Talk

## デザインの可能性、領域を越えて挑む世界

川崎和男 × 畠山耕治

デザインには今、異分野へアクセスし個々の領域を越えるチャレンジが求められています。デザイナーであり医学博士、教育者でもある川崎和男氏と、世界的金属作家の畠山耕治氏。二人はデザインに対し、どんな可能性を感じ、どんな挑戦をしているのか。若い世代への期待やメッセージを交えながらお話しいただきました。

**畠山** 若いデザイナーは、自分たちのコミュニンで自足するのではなく世界でどう戦うかを問うべきだ。

**川崎** カタチだけでなく制度設計までできるのがデザイン。世の中を動かすことができるのがデザイン。

**畠山** 素材の深くにまで入り込み空気感の濃い作品をつくるためには、思考的な回路だけではなく肉体的な回路でモノとやり取りしていく。デザインには体力が必要。体力の中から知力が出てくる。

**川崎** デザイナーこそ、学際的であれ。そのためには、「教員教授」では無い「学者教授」が要る。

**畠山** 川崎氏がやっているのは、人間の尊厳に軸足を置いたデザインだと思う。



**川崎 和男**  
デザインディレクター  
医学博士  
大阪大学 名誉教授  
名古屋市立大学 名誉教授



**畠山 耕治**  
金属作家  
金沢美術工芸大学教授



記念フォーラム/The 2nd Talk

## デザインのニューエイジ、エンジニアリングデザインの世界

吉泉聡 × 武井祥平

DESIGN THINK + DO TANKを掲げ“別の可能性をつくる”さまざまなプロジェクトを展開している「TAKT PROJECT」代表の吉泉聡氏。アート、デザイン、サイエンス、エンジニアリングと領域を越えて様々な研究と実践をおこなうエンジニアリングクリエイターの武井祥平氏。この二人に、デザイン界でその重要度が増してきている「エンジニアリングデザイン」の世界についてお話しいただきました。

**武井** ラビッドプロトタイピングの登場によって、設計～実装～テストのサイクルを高速で回す新しいエンジニアリングが可能となった。

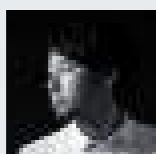
**吉泉** 武井氏とのコラボで行ったミラノデザインウィーク2017プロジェクト。表現したかったのは、部品（内部）世界の“invisible beauty”と、それらがもたらす“気配としての動き”。

**武井** 日本が得意とするのは、機能を満たすエンジニアリング。しかしそれとは別のアプローチに、ブルーオーシャンがある。

**吉泉** テクノロジーと表現、この二つの世界を行き来する。



**吉泉 聡**  
TAKT PROJECT 代表  
デザイナー  
クリエイティブディレクター



**武井 祥平**  
エンジニア  
研究者



9/22 Sat

オープンHUB/Session1

## ビッグデータ時代の地域の可能性

澄川伸一

IT技術とデータマイニング技術の進展により、様々な場で活用されているビッグデータ。その膨大な情報量から読み解く地域の可能性とは。バックパッカーと海外勤務を含め、世界57ヶ国の滞在経験をもち、リオ オリンピック公式卓球台のデザインを担当するなど、世界からも注目を集める澄川伸一氏にデザインセンター所長桐山が聞きました。



デザインには「WANTとMUST」がある。コスト、機能性、生産性、耐久性…これらMUSTの条件を満たせないと製品としては失格。しかしこれだけではない。楽しい、心地よい、好感が持てる…といったWANTの領域も欠かせない。しかしこの領域には、積み木思考では到達できない。偶発的なジャンプ力が必要だ。

大事なのは「思考のスタートラインを下げる」ということ。例えば「テーブルは4本足だ→4本足とは限らない」「ダンベルは左右同じ→左右同じでなくても良い…」というように。



**澄川 伸一**  
大阪芸術大学教授  
プロダクトデザイナー  
澄川伸一デザイン事務所代表

オープンHUB/Session2

## 布の世界とその表現、可能性 須藤玲子

日本の伝統的な染織技術から現代の先端技術までを駆使し、新しいテキスタイルづくりをおこなう須藤玲子氏。2018年春の国立新美術館（東京）では319匹の様々なテキスタイルのこいのぼりで幻想的な空間を生み出すなど、「布」の表現の自由さと可能性に挑み続けています。第一線で活躍し続ける須藤氏に「布」から無限に広がる表現とその可能性についてお話しいただきました。

例えば二頭の蚕が、一つの繭をつくるため糸は不揃いで節があり、糸として嫌がられた「玉糸」。しかし糸引きを工夫し、利用を進めた結果、今では独特な風合いを持つ貴重な糸として珍重されている。

絹糸は、蚕の生命をいただいたもの。すべてを生かそうとするのが日本の「勿体無い」の精神だと思う。山形のシルク産地との「kibiso(キビソ)プロジェクト」では、製糸段階で出る副産物、廃棄物の再利用に取り組んでいる。「きびそ」は蚕が繭作りの時に最初に吐き出す糸。そして最後に吐き出すのが「おがらみ緒糸」。いずれも織物には使われることはなかったが、有効利用の道を探り、デザイナーとのコラボにより、製品化に取り組んでいる。



**須藤 玲子**  
テキスタイルデザイナー  
東京造形大学教授

オープンHUB/Session3

## 関係性のデザイン、間と発見 吉泉聡 ※プロフィールはP8参照

ミラノデザインウィーク2018 グランドセイコーのインスタレーションや2017ミラノトリエンナーレ美術館でのアイシン精機のインスタレーションなど数々のプロジェクトを手がける「TAKT PROJECT」代表の吉泉聡氏。新しい素材開発の領域にも挑むなど、「関係性」をキーワードとする多様なデザインの活動についてお話しいただきました。

デザインとは「別の可能性をつくる」こと。More→More→More…と既存の軸に沿って「より良くつくる」を指向するのではなく、新しい価値軸をつくること。

多孔質プラスチックのプロジェクトは、大量生産品としてのプラスチックをユーザーが思い思いに天然染料で染色するというもの。制御できない色ムラによるオリジナリティが生まれる。大量生産という概念とユーザーとの関係性をデザインするプロジェクトとなった。

樹脂を金属に射出した素材「ポリメタック™」。「工業製品は均質」という価値観から脱し、木材など自然物に向かうときのように素材の素性を「見立てる」行為を作り手に誘発する。作り手との関係性を変える素材となった。



オープンHUB/Session4

ロボット制御プログラムとデザイン 武井祥平 ※プロフィールはP8参照

デザイナーが思い描くプランの実現に欠かせないエンジニアリング。2017年のミラノデザインウィークで発表されたアイシン精機のインスタレーションではTAKT PROJECT吉泉聡氏のコンセプトを実現するためにロボット制御システムを構築し、新しい表現を実現させました。研究者・エンジニアとして様々なプロジェクトを成功に導いてきた武井氏にエンジニアリングとデザインをテーマに語っていただきました。

一番大切だと思っているのは、世界観を変え更新し続けること。その体験の前で、世界の見え方がまったく変わってしまうような体験を経ることで、人は自分の未熟さを知り、謙虚になれ、次なる世界への興味も湧いてくる。それが知的に成熟していくことにつながると思うから。

仕事を通じてやりたいのは、見る人の世界観を覆し更新すること。興味を持ってもらい、ハッとさせられるかをいつも考えている。

活動のフィールドは、インスタレーションなどのデザインや博物館のコンテンツづくり、テーマパークのアトラクションなど多岐におよぶ。見る人に知的な刺激を与えられるフィールド、そこが自分のフィールドだ。



オープンHUB/Session5

環境デザインの新提案 久保田善明

富山大学に新設された都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科の教授である久保田善明氏。新しい学部・学科の設立に中心的に関わりながら、それ自体が都市デザイン活動の一環であると考えた久保田氏に、これからの時代の都市環境をいかにデザインするか、「環境デザイン」の新たな切り口をうかがいました。

我々が言う「都市デザイン」は単なるアーバン（都心部）デザインではない。気候や地殻変動なども含め、人間が活動するあらゆる領域を対象とする。

したがって学部の英文名はFaculty of Sustainable Design=持続可能デザイン学部としている。

「景観10年、風景100年、風土1,000年」と言われる。それ程の時間的な長さ・空間的な広さを射程に入れながらデザインする必要がある。デザインの領域ではBtoCが一般的だが、都市デザインにはG(Government)toC、さらにはBtoG(=公共調達)の視点が重要となってくる。公共デザインの分野にも切磋琢磨する仕組みが必要だ。



久保田 善明  
富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科  
学科長・教授

9/23 Sun

オープンHUB/Session6

人と地域文化をつなぐ"移動"の世界 (株)クリエイティブボックス

富山県総合デザインセンターHUBに拠点を置く日産自動車の先行デザイン開発を担う(株)クリエイティブボックス。先端産業からローカル分野まで様々な領域へアンテナを張りながら活動を行う同社のデザイナーが感じた富山の可能性や、「移動」という切り口から見たこれからのものづくりの可能性についてお話いただきました。

富山県に拠点を設けたのは、金属・木工・漆・和紙など様々な伝統工芸の技術に触れることで、クルマの質向上に役立てるため。日本らしいつくり込みの美しさをクルマにも取り入れたい。

クルマはEV、ガソリン車、自動運転、ドライビング・プレジャー指向…など多様化しつつ進化している。

設計ツールとしてCADの進化は著しい。今日、デザイン開発の多くのプロセスはデジタルツールで行っている。しかしボリューム感や表面品質などの表現で、実感と乖離する。デジタルとフィジカルの差をどう埋めていくのが課題だ。



(株)クリエイティブボックス

オープンHUB/Session7

デジタルファブリケーション時代のものづくり 吉田真也 × 窪英明 富山県総合デザインセンター 副主幹研究員

元メカニック出身のプロダクトデザイナー吉田真也氏と窪英明が、アルゴリズムやデジタルファブリケーションなどを活用した、新しいものづくりについてお話ししました。

3Dプリンタなどデジタルファブリケーションの進化は著しい。今日、3Dプリンタは試作や検証の道具としてだけでなく、最終製品をつくるツールの段階にまで来ている。

造形とともに重要な課題がCMF(Color色、Material素材、Finishing加工)だ。Rhinoceros(ライノセラス)とプラグインのGrasshopper(グラスホッパー)、オートデスクのFUSION360、Sculptrisなどのソフトウェアを使い、3Dスキャナや3Dプリンタを使ってデザインや最終製品づくりを行っている。

3Dプリントはwebでの出力サービスも始まっており、デジタルファブリケーションの環境は急速に整いつつある。



吉田 真也  
プロダクトデザイナー

オープンHUB/Session8

『気づき』から『造形』へのプロセス 松山祥樹 × 堂本拓哉 富山県総合デザインセンター 副主幹研究員

デザイナーが五感を通じて捉えた「気づき」を商品の「造形」表現に昇華させるプロセスとは？(株)ナガエで商品化した「collinette.」を事例に、プロダクトデザイナー松山祥樹氏に聞きました。

商品名collinetteとは「小さな丘」の意味。本が好きということもあって、言葉の持つイメージを追求する。そこから自ずと見えてくるものがある。

人と適切な距離感を持つ道具として構想した。機能性・量産性と美しさの両立が課題だった。どこか「冷たさ」を感じさせるような要素も込めて、フォルムを描いている。

言葉からのインスピレーションの強みは、固定されない自在さにあるように思う。



松山 祥樹  
プロダクトデザイナー

オープンHUB/Session9

富山もようプロジェクト 小柴尊昭 × 吉田絵美 富山県総合デザインセンター 主任研究員

風景や食、ものづくりの文化など、地域の特徴をテキスタイルデザインで表現し、その魅力を共有するプロジェクト「富山もよう」。プロジェクトのスタートから今日までの経緯、今後の展開などについて語り合いました。

地域の魅力への気づきは、往々にして「外」からやって来る。外の人気が気づいたものを表現することで、内側の人が再認識する。

新聞紙上での展開から、ポストカード、クリアファイル、さらにはポテトチップスのパッケージなどの商品へと広がっていった。

気づき→デザイン→新たな気づき→デザイン…というサイクルをこれからも回していきたい。



小柴 尊昭  
富山もようプロジェクト プロデューサー

Field work

銅器団地と能作の加工現場を見学

9月22日、23日の両日にわたって、それぞれ高岡銅器団地、能作のものづくりの現場を見学しました。銅器団地では工場を開放したオープンファクトリーの日にあたり、鑄造をはじめとする様々な金属加工の現場を見学。能作では鑄物場、仕上場などを見学しました。





# とやまデザイン・トライアル

「とやまデザイン・トライアル」は、県内の伝統工芸・ものづくり産業にデザイン系大学の学生から商品開発に向けたアイデア等を提案してもらうとともに、クリエイティブ人材確保支援のため大学と協力関係を結び、学生と県内企業のマッチングを行なう事業です。3回目の開催となる2018年度は、法政大学、京都工芸繊維大学、金沢美術工芸大学、富山大学が参加し、ものづくり企業の最先端技術などの視察や地元企業・団体と連携してワークショップ等の活動を行いました。

## 金属製インテリアアクセサリーづくりに取り組む

法政大学 × (株)ナンゴー / (株)能作

テーマ	産業シーズを発展させたプロダクトとブランド
概要	富山県のものづくり企業((株)ナンゴー・(株)能作)と連携し、新しい商品のデザイン・ブランディングを提案。提案内容と、企業で製作したプロトタイプを発表。

9月17日、法政大学デザイン工学部の学生23名が来県し、2泊3日の日程で県内産地や企業見学、ワークショップを行いました。富山では、五箇山和紙の里、三協立山(株)三協アルミ社、(株)ナンゴー、(株)能作、富山ガラス工房を見学した後、富山県総合デザインセンターでのワークショップでアイデアミーティングを実施。帰京後、学内でアイデアをブラッシュアップし、2社と連携してプロトタイプの製作を行いました。



## 3つのアプローチで井波彫刻の活性化を提案

京都工芸繊維大学 × 井波彫刻協同組合

テーマ	工芸の深化
概要	国の伝統的工芸品「井波彫刻」と協働し、「ブランディング」「井波彫刻総合会館の展示」「新商品開発」の3つの課題に取り組み成果を発表。

京都工芸繊維大学デザイン・建築学過程、デザイン学専攻の学生9名が来県し、2泊3日の日程で井波彫刻師とともに伝統産業が抱える課題に取り組みました。8月23日来県した学生は、瑞泉寺や工房を見学。彫刻体験や彫刻師とのディスカッションで井波彫刻への理解を深めた後、翌24日から3つのグループに別れ、課題の設定とその解決策づくりに取り組みました。25日、南砺市クリエイタープラザ桜クリエで行われた公開プレゼンテーションでは、「ブランディング」「井波彫刻総合会館の展示」「新商品開発」の3つのテーマの案が提案されました。



## ギフト用靴下の新商品案を提案

富山大学 × 助野(株)

テーマ	ギフト用靴下のデザイン提案
概要	「製品評価法」の授業を履修する学生が、助野(株)のデザイナー、プランナーのアドバイスを受けながらギフト用靴下のデザイン提案を行い、実際に試作品を製作し、その展示・PR方法についても提案。

### 8組のチームで新商品にチャレンジ

富山大学芸術文化学部授業「製品評価法(担当・内田和美教授)」を履修する学生22名と、靴下・レグウェア製造販売の助野(株)(高岡市)が連携して、ギフト用靴下の新商品開発に挑みました。10月22日のキックオフでは、助野のスタッフが靴下づくりの工程や市場調査の方法などを説明。11月26日の中間発表で選出した8案を、学生2~3名のチームに分かれてブラッシュアップし、試作品を製作、2019年1月28日に最終プレゼンテーションを迎えました。

### 全作品を日本橋とやま館でテスト販売

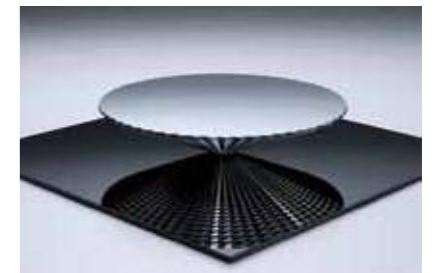
発表会では、助野の役員や社員が見守る中、8チーム8つの案をプレゼンテーション。富山の風物を図柄にしスーベニア市場を狙った「TOYAMA×SOCKS」、本屋というチャンネルで「植物図鑑女子」をターゲットに想定した「本と花ソックス」が優秀作品に選ばれました。前グループの作品は、3月中旬から県のアンテナショップ「日本橋とやま館」でテスト販売を開始。商品化への道を探ります。



## デジタルモデリングによる制作体験

金沢美術工芸大学 × (株)ウイン・ディー

テーマ	デジタルモデリングによる制作「指輪からモニュメントまで」
概要	金属の鋳造を中心に手による造形を学ぶ学生を対象に2D・3Dによる図面製作のワークショップを実施し、作成した図面のうち1点を(株)ウイン・ディーにて試作。



## 成果発表会

取り組んできた学生と企業の新商品・新事業提案の成果発表会が、2月24日ヤフー(株)オープンコラボレーションスペース「LODGE」(東京都千代田区紀尾井町)で行われました。4大学のうち、京都工芸繊維大学・法政大学の学生がそれぞれの取り組みについて発表。参加4大学の成果品が展示されました。







越中富山  
技のこわけ

## 「越中富山 技のこわけ」プロジェクト

新アイテム「箸置き」が登場。「福分け皿」も追加ラインナップ。

富山県総合デザインセンターが土産品の新たなブランドとして開発を進める「越中富山 技のこわけ」に、新商品が追加されました。県内企業5社と作家2名が開発した「福分け皿」9品のほか、新アイテム「箸置き」10品も新たに登場。新商品製作を期して、富山県内および東京で、新商品発表／予約販売会、展示販売会、イベントなどが行われました。

### 「技のこわけ」とは

2009年に富山県総合デザインセンターが中心となってスタートした、“おすそわけ”の風習をお土産の形にして届けようという「越中富山お土産プロジェクト」。その第1弾として発表した「幸のこわけ」シリーズは、県内外から大きな反響を呼びました。その後、第2弾として取り組んだのが、金属、漆芸、和紙、硝子、木工、陶芸など富山を代表する技を使った「技のこわけ」です。「福分け皿」を皮切りに、「福分け片口・ぐい呑」も続けて発表。そして今回、新メンバーも含む県内企業3社と作家2名が開発した、新アイテム「箸置き」と「福分け皿」の新商品をラインナップ。プロジェクトのスタートから10年の時を経て、「技のこわけ」シリーズがますます充実の度を高めています。

### プロジェクトメンバー

下尾 さおり/shimoo design・木工作家  
進藤 仁美/D&DEPARTMENT TOYAMA 店長  
能作 幾代/nousaku 店主・チーズソムリエ・一級建築士  
真野 知子/ギフトコンシェルジュ



### 「つくり手を巡る“技”の裏側ツアー」を開催。

【開催日】2019年3月4日(月)

【ツアー日程】桂樹舎、Shimoo Design、富山ガラス工房、中村製作所、石瀬の家(交流会)

### 「越中富山 技のこわけ～富山でみつける “技”の裏側」展、東京と富山で開催。

◎富山

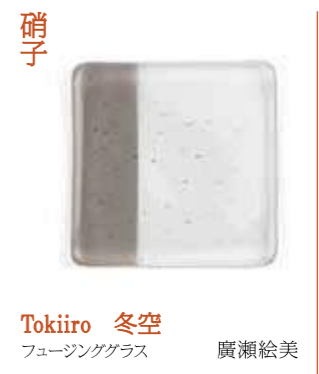
【期日】2018年12月14日(金)～2019年3月3日(日)

【会場】D&DEPARTMENT TOYAMA

◎東京

【期日】2019年3月18日(月)～30日(土)

【会場】日本橋とやま館





# 台湾デザインセンターとの連携事業

富山県総合デザインセンターと台湾デザインセンターは、市場開拓や商品開発などで連携していく覚書を2016年に締結して以来、ワークショップの開催や互いのデザイン力を生かした新商品開発への取り組みなどで交流を深めてきました。2018年度は、台湾のデザイン賞「ゴールデン・ピン・アワード(2017年)」でベストデザインに選ばれた「技のこわけ」を題材に、台湾の地で展示会・セミナー・ワークショップ・ポップアップショップのイベントを開催しました。また、6組の台湾デザイナーとの商品開発をスタートしました。



## KITOKITO TOYAMA 富山展

【期日】2019年2月23日(土)～3月24日(日) 【会場】NOT JUST LIBRARY(松山文創園区内/台北市)



### 商品開発

## 越中富山 技のこわけ×台湾デザイナー

福分け皿、酒器に続く「箸置き」を6組の台湾デザイナーとコラボレーション。富山の伝統工芸と台湾デザイナーの感性が融合した商品の開発をスタートさせ、グローバルマーケットでの販売を目指します。

参加デザイナー: 不二堂、DOT design、gridesign studio、STUDIO LIM、TZULAï、YenChen Design Studio

### セミナー

## 「工芸×デザイン」の時代

台湾のデザイナーブランド「Kamaro'an」デザイナーの張雲帆(Yun Fann Chang)氏と、富山県総合デザインセンター所長が、国際的な視点からのデザインの可能性や、日本と台湾における生産から職人技までのソフトパワーの共有などをテーマに、講演・対談を行いました。

【期日】2019年2月23日(土)

【会場】NOT JUST LIBRARY(松山文創園区内/台北市)

【講演】「継承と変革…工芸×デザイン」

富山県総合デザインセンター 所長 桐山登士樹

「台湾デザインセンター/富山県総合デザインセンター連携事業」

富山県総合デザインセンター 副主幹研究員 堂本拓哉

【対談】「『地方創生』的観点からの工芸の育成」

Kamaro'an × 桐山登士樹



### ワークショップ

## 螺鈿塗り箸

高岡市で漆器・螺鈿細工を営む武蔵川工房(明治43年創業)の螺鈿師・武蔵川剛嗣氏によるワークショップが2回にわたって行われました。

【期日】2019年2月24日(日)

【会場】NOT JUST LIBRARY(松山文創園区内/台北市)

【講師】(有)武蔵川工房 螺鈿師 武蔵川剛嗣



### 販売会

## 「一起把富山的美带回家吧！」(富山の美しさをお持ち帰りください!)

「技のこわけ」商品を販売するポップアップショップを展開しました。

【期日】2019年1月29日(火)～3月24日(日)

【会場】DESIGN PIN SHOP(松山文創園区内/台北市)





異業種連携による新たなプロジェクト創出を目指し、毎月1回のペースで進められている「未来研究会・プロジェクト会議」。様々な分野の専門家を交えながら開催された未来研究会の中から、プロダクトデザインのキーワード「CMF=Color色、Material素材、Finish仕上げ」をテーマとしたセッションの記録を抜粋してご紹介します。



### 未来研究会

様々な専門家をゲストに招き、未来像を探ります。

第1回 5G通信が変える生活

第2回 人が集まる空間づくり

第3回 未来を切り開く素材

第4回 家電の進化とCMF

第5回 総括

### プロジェクト会議

2つのテーマで具体的なプロジェクト化を目指します。

テーマⅠ 未来に必要な「素材」

次世代自動車の素材ニーズを読み解き、新たな素材、用途の提案を目指します。

テーマⅡ 未来に必要な「モビリティ」

超高齢化社会における地方型モビリティや、サービス提案を目指します。

### 第3回 未来研究会

## 未来を切り開く素材

【期間】2018年11月20日(火)

【会場】富山県総合デザインセンター 2F クリエイティブサロン



吉川 久美子

Material ConneXion Tokyo  
(株)エムクロッシング 代表取締役

Material ConneXionは、さまざまな素材や加工技術を、製品、デザイン、開発、製造のイノベーションに結びつけるためのサービスと提案を行うコンサルティング会社で、東京六本木AXISビルでは会員制のマテリアルライブラリーも運営。マテリアルライブラリーには世界中から収集された2,400点以上の様々な業種の工業製品の素材を展示するほか、データベースで7,500点以上の素材を検索し情報を入手することができるサービスも提供している。

Material ConneXion(MCX)はニューヨークを本拠地とし、世界7カ国に拠点を置くマテリアルソリューションカンパニー。世界中から集めた先端素材を閲覧できるマテリアルライブラリーの運営と、素材の作り手と使い手をつなぎソリューションを生み出すためのコンサルテーションを提供しています。日本でMCX Tokyoが誕生したのは2013年、その運営を行うエムクロッシングの吉川久美子代表が、素材から広がるイノベーションの可能性について事例を交えて話しました。

MCX Tokyoが提供するものは、①ライブラリーによるマテリアル情報、②商品開発における素材提案などのコンサルティング、③素材メーカーとユーザーとのマッチングという3つの機能。これまでにない新しい

素材を探す製品メーカーの利用もあれば、素材メーカーが「こんな素材ができたが、どこかに使えないか」とPRを期待して利用するケースもあります。MCXはそれら両者のビジネスマッチングも行います。

あらゆる業界で製品のコモディティ化が進み、性能や外観デザインだけでは差別化が難しくなっている今、プロダクトの根本である素材からのアプローチは、これまでにない新しい価値を創出していくための手段としてますます注目を集めています。今まで想定したこともない異業種の素材との出会いによって、製品のカたちだけでなくユーザーの体験価値も革新されるかもしれません。素材からイノベーションを起こす場として活用してほしいと、吉川さんは語っていました。

### 第4回 未来研究会

## SONYデザインとColor Material Finish

【期間】2018年12月18日(火)

【会場】富山県総合デザインセンター 2F クリエイティブサロン



詫摩 智朗

ソニー(株)クリエイティブセンター  
Studio2 統括部長

電機メーカーのプロダクトデザイナーを経て、2001年にソニー(株)へ入社。パーソナルコンピュータやカーオーディオ製品などを担当、04年からロンドンへ赴任、主にリサーチと提案業務に従事。帰国後、CMFとデザイン言語開発のチームを率いる。12年にオーディオ製品カテゴリーのチーフアートディレクター就任、プロダクトデザインだけでなくUIやコミュニケーション領域を含めトータルなディレクションを行う。18年4月から現職。

家電やAV機器、パソコンなどのプロダクトデザインを手がけてきた詫摩氏。現在はソニーのオーディオカテゴリー製品全般のアートディレクションを担当しています。氏が携わってきた代表的な製品として上げられるのが、ソニーオーディオのフラッグシップモデル「Signature Series(シグネチャーシリーズ)」と、斬新なカラーリングとプロダクトデザインが注目を集めたハイレゾ対応ヘッドホン「h.ear」。研究会ではこれら製品の開発プロセスを紹介しながら、CMFへの取り組みを説明しました。

Signature Seriesでは、シリーズを構成するヘッドホン、ウォークマン、ヘッドホンアンプそれぞれの構造、プレーヤーのシャーシに採用した無酸素銅など素材について言及。素材や細部の形状・仕上げへの徹底したこだわりによって、高音質という

機能性、装着時・使用時の快適性、そしてプロダクトとしての美しさを実現した経験を紹介。

h.earでは、Single shape(最小の要素で一体的に表現した造形)、Single color finish(単色仕上げ)というコンセプトに至る経緯を紹介。トレンド分析を重ね辿りついたColors in between(中間的な色相)と5色のカラーバリエーション。数千パターンにおよぶ色合わせを試行しながら、異素材・異表面仕上げのパーツすべてで、同じ色味になるよう作り込んだこだわり。さらに製品、パッケージ、ショップに至るすべてのアイテムでSinglecolor finishを貫徹。これまでのオーディオ製品にはなかった新しい世界観を創出したh.earを題材に、CMFの意義と重要性について語りました。

## 2018年度の総括と展望

一般的に「デザイン」は美しい色・形のこゝろと捉えられています。

美しいと感じるためには、その人の気持ち・暮らしなどの重要な要因になります。単にモノの美しさや使いやすさだけでなく、物事を俯瞰的に捉えて未来のシーンとして創造し、そこへ導くことこそがデザインの本来の役割なのです。

未来を想像し理想的な未来社会を考える活動として未来研究会を開催してきました。これは従来のような企業の都合を起点とした延長上の開発だけでは、未来のユーザーが求めるシーンには必ずしもフィットしないと考えたからです。様々なトップランナーをゲストに迎えての未来研究会での講演に対し、プロジェクト会議では自社の都合や事情を忘れ、県内外の企業メンバー、クリエイターなど様々な分野のメンバーが多角的に活発な議論を重ね、未来のユーザーが必要とするシーンを追求めて



岡 雄一郎

富山県総合デザインセンター  
プロジェクトリーダー

1989年金沢美術工芸大学卒業。89~97年、NEC(日本電気(株))、97~2016年、アイシン精機(株)にてデザイナー、デザイン部長として勤務。16年デザイン&デザインコンサルティング会社TUG DESIGNを設立。17年4月から富山県総合デザインセンターのプロジェク



きました。異業種のメンバーが他業種の考え方や発想を体感し、参加者自身の成長にも大きく繋がっていると思います。

そして2019年度からは常に進化する未来研究を継続させながら、一方では浮かび上がった未来シーンに導くためのモノやサービス、システムなどを実際に考えていきます。ここでは従来の枠組みでは実現できないこともあり、富山県総合デザインセンターが今まで築いてきたクリエイターや県内外企業のネットワークを活用した、HUB機能として新たなスキームによる「未来起点によるものづくり」の挑戦をスタートさせたいと思います。

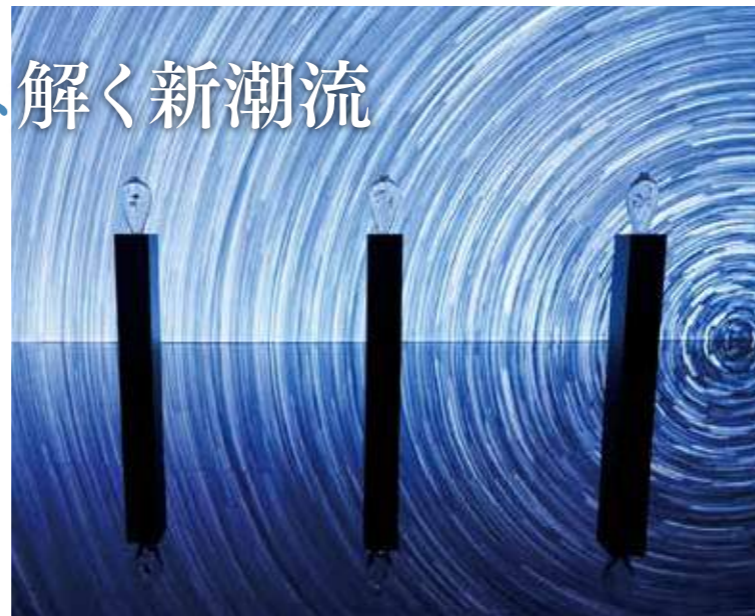


## ミラノサローネ2018

# 最新トレンドから読み解く新潮流

【期日】 2018年6月27日(水)  
 【会場】 富山県総合デザインセンター 2Fクリエイティブ・サロン  
 【講師】 高橋美礼  
 デザイナー/デザインジャーナリスト/多摩美術大学芸術学科非常勤講師

イタリア・ミラノで開催される世界最大規模の国際家具見本市「ミラノサローネ」。2018年は4月17日～22日までの6日間にわたって開催されました。今年の総出展社数は1,841社、来場者は前年比26%増の43万4,509人に上り記録的な盛況を収めました。商品開発研究会では、ミラノサローネを20年以上にわたってウォッチし続けている高橋美礼氏を招き、注目すべきブランドやデザイナーなどについて報告を受けました。続いて富山総合デザインセンター所長・桐山登士樹とのトークセッションでは、サローネのトレンド分析のほか、桐山がプロデュースしミラノサローネに出展したセイコーウォッチのインスタレーション「The Flow of Time」にも話題が及びました。



撮影:高橋美礼

### ミラノサローネ2018報告

高橋美礼氏は、数多くの出展の中から2018年の注目すべきブランド、クリエーターをピックアップ。豊富な写真を用いて紹介しました。

#### Kartell (カルテル)

イタリアの家具メーカーカルテルの今年のテーマは「smart design of smart people」。フィリップ・スタルクデザインによる3D成形合板のシリーズを発表。日本人デザイナー吉岡徳仁デザインのマトリックスチェアも注目を集めていた。

#### Arper (アルペール)

岩崎一郎がデザインするKiikは、テーブル、オットマン、ラウンジソファなどから成る。モジュール式に組み合わせて使える低背の家具シリーズ。

#### PLANK (プランク)

コンスタンチン・グルチッチと深澤直人の新作チェアを出展。グルチッチは樹脂製のスーツケースの製造技術を構造体に取り入れた「CUP」を、深澤は流線型に仕上げられた「Land」を、それぞれ発表。

#### emeco (エメコ)

欧州で人気の高い鳥をモチーフとしたオブジェ。ジャスパー・モリソンの教え子の学生の作品にエメコが着目し製品化されることに。他にも原材料の90%が産業廃棄物というチェアシリーズも出展。

#### Glas Italia (グラスイタリア)

吉岡徳仁の「Starlight Glass Table」は、ガラスの素材特性を最大限に活かしたテーブル。パトリシア・ウルキオラは虹色の光沢を持つガラスのローテーブル「Shimmer」を発表。今年の傾向として、ビビッドな色使いが増えている。

#### カリモク ニュースタンドード

連続2年出展のカリモク。「コンパクトな暮らし」をテーマに、ベルリンで活動するゲッケラー・ミヘルス、国籍の異なる3人のデザインチームのビッグ・ゲーム、ドイツのデザイナーのクリスチャン・ハースらによる新作家具を出展。

#### マルニ木工

深澤直人の積層合板を三次元加工したアームチェア「Roundish」、ジャスパー・モリソンの無垢材を使った「Fugu」チェアを発表。

#### サンワカンパニー

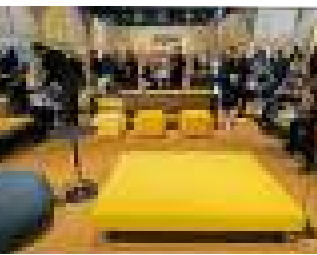
「The Impact of Compact」をテーマに8種類のコンパクトキッチンを出展。最も優れた展示をした企業を表彰する第3回「ミラノサローネ・アワード」を日本企業として初受賞した。

### トークセッション

高橋氏と桐山氏のトークセッションでは次のような意見が交わされました。  
 ◎デザイナーやメーカーにとって世界市場への登竜門として位置づけられるミラノサローネ  
 ◎リサイクル、サステナビリティなど環境問題は、これからのデザインにとって避けられない課題  
 ◎中国など成長国のニーズには、デザイン嗜好の分析やアライアンスなどで対応していく必要性あり  
 ◎広報・広告手段としてSNS積極活用との必要性と可能性  
 ◎異文化交流の促進の中から新しいものを生み出していくことの必要性

### ブランドセイコー “The Flow of Time”

セイコーウォッチは、富山県総合デザインセンター所長の桐山登士樹が総合プロデュース、WOWの阿部伸吾が映像作品、TAKT PROJECTがオブジェを担当するインスタレーション「The Flow of Time」を出展。独自機構「スプリングドライブ」の世界観を伝えました。



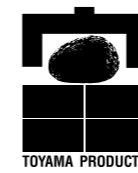
Arper



emeco



Glas Italia



## 優れた富山ブランドとして 今年度30点を選定

県内で企画・製造したプロダクト製品を対象に、性能や品質、デザイン性に優れた商品を富山県が選定し、その販路拡大の支援を行っています。

**選定委員**  
 委員長 桐山登士樹 富山県総合デザインセンター所長  
 委員 内田和美 富山大学芸術文化学部教授  
 進藤仁美 D&DEPARTMENT TOYAMA店長  
 高川昭良 高岡市デザイン・工芸センター所長  
 高木喜義 (公財)富山県新世紀産業機構中小企業支援センター部長  
 茂木新之助 (株)専通クリエイト商品本部商品企画室バイヤー  
 岡雄一郎 富山県総合デザインセンタープロジェクトリーダー

2018年 9月 5日 選定委員会  
 2018年10月 1日 選定証交付  
 2018年10月12日～12月9日 展示会



### 平成30年度 富山プロダクツ選定商品 (順不同)

★は再申請応募により、選定された商品

#### シェイクハンズ

[ランニング用飲料ボトル]  
 ウェルビー(株)



歩きながら、走りながら、スムーズに水分補給できるハイドレーションボトル。

【講評】ランナーのニーズに合わせたアイデアが良い。使用シーンに特化した商品・機能性とデザインがマッチして良い。

#### くまりん

[熊鈴]  
 (株)山口久乗



「1/fのゆらぎ」の定義に合う心地よい響きのおりんを採用。より良好に音響の余韻を継続できるリン用具支持構造を採用。

【講評】音、デザイン性に優れている。体や衣類に触れていても音がなる機能性の高さが良い。

#### 炭草花シリーズ★

[シューズ&ブーツケア、クローゼットケア、ルーム&ハウスケア]  
 アイオーティカーボン(株)



富山地域で発生する未利用廃木材を高温度で炭化し脱臭・調湿性能に優れた高機能木炭として再生したエコデザイン雑貨。

【講評】富山の素材を生かした良い商品。素材とエコをうまく商品化している。

#### りん鐘モニュメント

[おりん]  
 (株)山口久乗



屋外用として開発した久乗おりん。「1/fのゆらぎ」の定義に適ったとても良い音。公共の場に最適。

【講評】デザインがとても素敵で、実際に音を聞いてみたくなる。音そのものを観光資源としてPRしているのが良い。

#### 铸铁製ペンスタンド 大、小

[ペンスタンド]  
 (株)織田幸銅器



駒形のペンスタンド。ペンは垂直でも斜め45度でも立てることができる。

【講評】デザインがよく、価格設定も妥当。シンプルで美しい見た目・価格ともに良い商品。ギフトに最適。

#### 溜塗そば猪口★

[そば猪口]  
 黒田昌吾



下地漆、色漆を用い抽象的な絵柄をつけ、溜塗りでおちついた風合いに仕上げた。

【講評】独特の作風があり、かつ長年同じ作風でありながら、新しさを感じるデザイン。漆の性質を熟知した仕事で随所に施されているが、やりすぎ感のない洗練された完成度の高い商品。



## 溜塗大椀★

[椀]  
黒田昌吾



中塗りで色漆を使い、抽象的な絵柄をつけ、仕上げに溜塗りを施し、落ち着いた風合いを表現。持ちやすいようサイズ、形を工夫。

[講評] 独特の作風があり、かつ長年同じ作風でありながら、新しさを感じるデザイン。漆の性質を熟知した仕事で随所に施されているが、やりすぎ感のない洗練された完成度の高い商品。

## 墨床

[墨置き]  
黒田昌吾



下地漆を用いて凹凸の模様をつけた。

[講評] 独特の作風があり、かつ長年同じ作風でありながら、新しさを感じるデザイン。繊細な仕上げと形状があっという間に良い。

## NT HANDLES

NT01、NT02、NT03  
[室内ドアハンドルおよび引手]  
三協立山(株)



用途の違うハンドルをラウンド形状を統一して用いることで、住宅一棟内のコーディネートが可能にしたインテリニアパーツ。

[講評] シンプルで統一感がある。スタイリッシュ、デザイン性を高く評価。

## 室内用物干し NS-IMAA01

[屋内天吊り物干し]  
(株)ナガエ



洗濯物を室内干しできる天井付けの物干し。使わないときはシャフトを簡単に取り外せる。物干し竿を着脱しやすいフック型デザイン。フック部分はグリップ性のあるポリエチレンコーティング。一本のラインのようなシンプルなフォルム。

[講評] 従来品に比べ、デザイン性、機能性に優れた美しい商品として完成度が高い。

## 溜塗丸盆

[丸盆]  
黒田昌吾



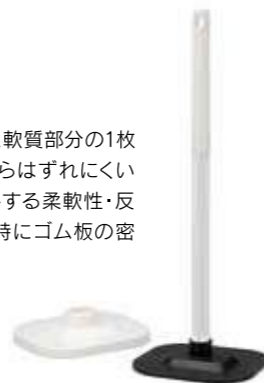
下地漆を用いてシンプルなデザインにした。使いやすさを第一にした盆。

[講評] 独特の作風があり、かつ長年同じ作風でありながら、新しさを感じるデザイン。漆の性質を熟知した仕事で随所に施されているが、やりすぎ感のない洗練された完成度の高い商品。

## パッコンバー

[トイレ詰まり専用通水用具]  
(株)アムテック

ゴム部分は、特殊2層構造の硬質部分と軟質部分の1枚ゴム板。しっかり力を受け止め、バーからはずれにくい硬質部分とトラップにぴったりフィットする柔軟性・反発弾力の高い部分とで詰まりに対処。特にゴム板の密着力の強いことが特徴。変質しにくく洗剤などの酸・アルカリ性に対しても耐性があり、長期にわたって使用できる。



[講評] 機能性、収納性、アイデアに優れている。独自性の高い商品。

## 坐蒲 円相ちらし艶黒、菊花繚乱孔雀色、流水金色

[坐蒲]  
(株)ナガエ



坐蒲は座禅の姿勢を落ち着ける用具。従来は黒一色であった坐蒲に華やかな色柄を用いた。生活シーンに美しく存在する自分用の坐蒲。本物の製法、素材にこだわりを持って製造。側面に持つ手を付け、取り扱いしやすいようにしている。座禅の仕方の解説付きで初めての方にも配慮している。

[講評] 富山らしい商材で、かつ禅ブームにも合う商品。日本ならではの文化を伝承する意味ではインテリア性に着眼した点が良い。

## お守り福笑 家内安全、学業成就

[お守り・ホイッスル]  
(有)小野沢家具店



お守りとホイッスルを組み合わせている。国産ヒノキ材を使用。デザイン: 柏木玲子

[講評] 提案性に優れており、音、パッケージ等完成度が高い。現代社会をうまく捉えた商品。

## 六方

[菅笠]  
高岡民芸(株)



国の伝統的工芸品に指定された越中福岡の菅笠の製作技術を用いて製作したオリジナルデザインの菅笠。亀甲をモチーフにし、長寿・繁栄の願いを込めた。本品は工芸都市高岡クラフトコンペティション2017において奨励賞を受賞した。

[講評] 従来の菅笠のイメージを払拭する完成度の高いデザインである。中側までも美しくクラフト的にも非常に優れている。

## アクティブインサレーション

CR18AIA01  
[アクティブインサレーション]  
(株)アートジョイ



特殊な断面の糸を起毛し、80gの超軽量(Lサイズ)と、保温性がある。乾燥性・通気性も抜群で発汗の伴うシチュエーションでも着用可能。

[講評] 軽さ・暖かさがあり、使ってみて。内側の素材は今までの起毛糸の触感とも違い、非常に独自性を感じた。

## 鍛木、たまゆき、さみだれ

[鍛木皿]  
(株)駒井漆器製作所



木に漆を塗り、金槌で叩き、今までにない新しいクラスチャーを表現した。共同製作者: IRON CHOP 澤田健勝、(有)シマタニ昇龍工房

[講評] 富山の伝統技術が組み合わされ、新しい洗練されたモノづくりに発展している。テクスチャーが新しく、美しい。

## コランダー アンド バット レクタンダル

[調理用ザルとバットのセット]  
(株)リッチェル



水切り→保存→加熱までの調理を一貫して使えるザル・ボウル、1台3役で調理過程での洗い物を増やさない、冷蔵庫に収まりの良い長方形でありながら、洗いやすく、水切れの良い丸みを帯びた形状。ザルとボウルは90°回して重ねることで、食材を入れたまま積み重ねができ、調理スペースを広く使える。GOOD DESIGN AWARD 2017受賞商品。

[講評] デザイン性、機能面が非常に優れている商品。使用性と機能性をデザインでまとめ、商品として昇華している。

## isara 鋳皿小/S、鋳皿大/L、鋳鉢

[皿、鉢]  
(有)佐野政製作所



鋳鉄は銅器の廉価版として商品開発がなされてきたが、本製品は鋳鉄を高岡銅器の表現方法を用いて、繊細な表情を引き立たせるデザインになっている。

[講評] 鉄の素材感を生かし、それぞれが重さをあまり感じさせない程良い大きさに造形され、好感のもてる商品に仕上がっている。

## 城端シルク 堂前守人「折々の草花」シリーズ 5種

[シルクスカーフ・シルクストール]  
(株)富山プレート



玉糸を緯糸に用いた、独特の風合いの富山伝統の絹織物に、陶芸家の描き下ろし作品を手擦染にて一枚一枚染色した。

[講評] 素材の良さが実感でき、鮮やかな色・柄も華やかで上品。幅広い世代に愛用されるデザインに仕上がっている。

## TENGA★

[保存容器]  
(株)リッチェル



整然と並べられ、積み重ねられる、しっかりと密封できる、中身が見える、可能な限り容量効率を高める、レンジであたためることもできる、そして「そのまま食卓へ」。目指したのは、一連の動きの中で、その動作が確かで美しく、自然に見えること。器として、食卓のテーブルウェアになじむこと。容器とフタとのかかわりが絶妙で、食卓に並んだ時心地よい。そんな形と質感、機能と調和を求めている。

[講評] 容器として収納した姿が美しく、器として使っても良いデザイン。色のバリエーションもあり、お客様目線の商品。

## ロータス★

[器]  
(株)能作



錫(100%)の曲がる特性を生かした、形を自由に変えて使用できる器。ソーパティッシュのほか、花入れや歯ブラシ立てなど様々な用途に可能性が広がる。デザイン: 磯野梨影

[講評] 錫の特性を生かし、インテリアとしても置きたくなるデザイン。形を変えられるので汎用性もある。



rin、pin シルバー、ブラックニッケル ★  
[風鈴]  
(株)能作



水滴をイメージした風鈴。音色は真鍮  
鑄物のやさしい音がする。  
デザイン:安次富 隆

[講評] シンプルなデザインで価格も抑え目で、初心者でも買いやすい商品。  
水の滴るイメージと音をモチーフとしてうまくまとめている。

箸置「8」 5ヶ入 ★  
[箸置]  
(株)能作



錫(100%)の曲がる特性  
を生かし、形を自由に変え  
て使用できる。形は末広が  
りの「八」。結びの形「8」と  
している。  
デザイン:吉田絵美

[講評] 安定的に売れている商品で再申請するに値する商品。錫の特性を利用  
したデザインが良い。

立山ぐい呑 L、S  
[ぐい呑]  
(株)能作



富山県が誇る日本3名山の  
ひとつ立山連峰をモチーフ  
にした錫100%のぐい呑。  
立山連峰のパノラマをぐるっ  
と一つのぐい呑にした。L、Sの2種類のサイズがあるので、お好みのもの  
を選ぶことができる。それぞれの山の位置が分かるよう、パッケージに  
薄紙をつけているので、県外の方へのお土産にもおすすめ。

[講評] 富山のモチーフを装飾的に華美にならないようプロダクトに取り込ん  
でいる。価格も買いやすくクオリティも高い。

pinhole-A、B  
[錫小皿]  
(株)能作



Shimoo Designによる原型製作を  
もとに生型鑄造で製作した錫小皿。  
石や木、レンガやコンクリートなどを  
イメージして製作された原型は名前  
のとおりあえてピンホールを生かした  
仕上がりとなっている。よく見ないと鑄物でありながら木製の様に一つ  
ひとつ表情が大きく異なって見えるのが特徴で、柄は2種類ある。

[講評] ピンホールを逆にデザインとして生かしたアイデア、形がよく、木の  
テクスチャーを錫で表現しているところが新たな感覚で面白い。

Sasa  
[トレー]  
(株)能作



複数のくほみから成る多様性のあるトレー。日本の豊かな資源である  
大海原をイメージ。また、Lサイズ単体だけでなく、MサイズやSサイズと  
一緒にタイル状に並べると、表現に新たな広がり生まれる。  
デザイン:24° Studio

[講評] くほみの数・全体的な形状を含め秀逸。リッチな使用シーンが想像さ  
れるデザイン。

CK透明継手シリーズ(プレシールタイプ) ★  
[配管用継手]  
シーケー金属(株)



給水管や消火配管の  
土中埋設に使用される  
継手。外面に環境負荷  
の少ないアクリル系樹  
脂を採用し透明化する  
ことで、目視での施工  
確認を可能とし、施工  
不安を解消した。

[講評] この明るい色と透明であることの視認性は、配管業界では革命的な  
商品。

らでん名刺入 松、亀甲 ★  
[名刺入]  
漆器くもと



伝統工芸品、高岡漆器の特徴であ  
る青貝塗の技法を用いた名刺入。  
手に収まるよう、薄くし角を落と  
してある。

[講評] 上質さを感じられるアイテム。螺鈿を用いた意匠や技が高級感を醸し  
出している。

Dish FUNGI  
[皿]  
(有)四津川製作所



三種類のサイズと高さがあり、料理の空間を立体的に360°美しく引き  
立つ。レガントで緊張感のあるフォルムは高岡鑄物の高い技術により  
実現。

[講評] 形に個性があり、カラーバリエーションも今の時代に合うデザインに  
感じた。造形的に面白い商品であり、オリジナル性を評価。

# 富山ブランドを支援するための 販路開拓への試み

富山県は、「富山プロダクツ選定事業」と並行し、県内で生まれたデザイン製品をより多くの人に知ってもらい買ってもらうた  
めの「販路開拓事業」も行っています。本年度は、銀座三越での展示販売会とワークショップ、D&DEPARTMENT TOYAMAでの  
展示会を開催し、販路開拓を支援しました。

## 富山のチカラ ～暮らしのおすそ分け～

[期間] 2018年5月14日(月)～29日(火)  
[会場] 銀座三越GINZAステージ 7階リビングフロア

富山の“おすそわけ”の風習から生まれた「越中富山 技のこわけ」を中心に、“日々  
の暮らしのおすそわけ”を日本伝統の匠の技とともに提案しました。工芸がより暮らし  
の中になじむよう、富山の食ブランド「幸のこわけ」や、技のこわけに参画する企  
業・作家らの商品と組み合わせ、夏に向けた設えにて紹介しました。会期中は工芸を  
より身近に感じてもらうためのワークショップも開催しました。



越中富山 技のこわけ



越中富山 幸のこわけ



能作



四津川製作所



桂樹舎



天野漆器



木下宝/釋永岳/平戸香菜/前川わと

## 富山プロダクツ2018展

[期間] 2018年10月12日(金)～12月9日(日)  
[会場] D&DEPARTMENT TOYAMA

2002年度から始まり17年目となる今年度新たに選定された19  
社30商品の展示販売を行いました。

県内の伝統技術を活かし現代のライフスタイルにあったデザイン  
性の高い商品や選定から10年を経過した商品があらためて選定さ  
れ、富山のロングライフデザインとして評価されるなど、県内企業のも  
のづくり技術の高さを改めて感じる事ができました。





名称・日時	内容	備考	場所		
1 デザイン開発支援事業	富山県商品開発研究会 2018/6/27	ミラノデザインウィーク2018 富山県総合デザインセンター展示会出展報告 越中富山技のこわけ第3弾募集案内	講師:高橋 美礼(デザイナー/デザインジャーナリスト/多摩美術大学芸術学術科非常勤講師) 県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン		
	2018/7/11	富山デザインコンペティション2018応募作品内覧会(1次審査)	国際文化会館(東京都港区)		
	2018/8/8	富山デザインコンペティション1次審査結果報告 「越中富山 技のこわけ」商品開発について 富山プロダクト選定商品の募集について	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン		
	2018/8/23	「世界のデザイン活用動向とデザイン賞の効果」 勉強会・応募を検討する製品を持ち込んでの勉強会	講師:ラルフ・ウィーグマン(IF インターナショナルフォーラム・デザイン CEO) *		
	2018/10/3	富山デザインコンペティション2018 2次審査・授賞式・意見交換会参加	富山県民会館 304会議室 D&DEPARTMENT TOYAMA		
	2019/2/24	とやまデザイン・トライアルワークショップ成果発表会	ヤフー㈱オープンコラボレーションスペース[LODGE](東京都千代田区)		
	2019/3/9	福井企業視察研修会	講師:田中 真紀子(フードデザイナー) 株式会社ツギ、デザインセンターふくい、福井ものづくりキャンパス、日華化学㈱、㈱Hacoa、㈱ポストクラフ		
	新川・富山相談窓口の開設	企業の商品開発や、PR、各種情報にいたるまで、幅広くサポート。 「商品開発についてアドバイスしてほしい」「企業の魅力や商品を効果的にPRしたい」「商品開発の補助事業を知りたい」といった様々な要望をもつ県内企業、個人事業者の方を対象に個別相談に応じるデザイン相談会を開催。	【新川地区】 相談日時:毎月第1金曜日 13:30~16:30 【富山地区】 相談日時:毎月第2・4金曜日 13:30~16:30	県魚津総合庁舎 405会議室 富山県民会館 604会議室	
	デザインプロジェクト推進事業 2018/4~2019/3	富山県内のデザイン開発支援策として、企業にデザイナーを派遣し、デザインを軸に魅力ある商品開発プロジェクトを発起させ、県内のデザイン開発を推進する。	派遣先企業①:㈱小泉製作所 派遣先企業②:㈱佐野政製作所 派遣先企業③:㈱大橋製材 派遣先企業④:㈱青山森林サービス 派遣先企業⑤:㈱ジェック経営コンサルタント 派遣先企業⑥:台湾デザインセンター 派遣先企業⑦:㈱中村製作所 派遣先企業⑧:三協立山㈱ 派遣先企業⑨:日本エレテックス㈱ 派遣先企業⑩:ケーズメタル㈱		
	コンセプトカー展示記念イベント 2018/7/2	「世界屈指のモデル製作メーカーと先進モビリティメーカーが語る成功例~ものづくり拠点(富山)の可能性を探る」	講師:堀江 勝人(日南グループ 代表) 戸根 隆裕(㈱クリエイティブボックスゼネラルマネージャー兼日産自動車㈱グローバルデザイン本部デザインビジネスマネージメント部長) モテレーター:桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長)	県産業高度化センター 展示室	
2 デザイン交流拠点全国発信事業	とやまD' DAYS 2018 2018/8/27	オープニングセミナー 「二人が挑むテキスタイルデザインの世界」	講師:鈴木 マサル(テキスタイルデザイナー/東京造形大学教授) 氷室 友里(テキスタイルデザイナー) モテレーター:川上 真季子(デザイナー/ジャーナリスト)	県産業高度化センター 会議室	
	2018/8/27	テキスタイルデザインワークショップ	講師:鈴木 マサル(テキスタイルデザイナー/東京造形大学教授) 氷室 友里(テキスタイルデザイナー) モテレーター:桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン	
	2018/9/21	記念フォーラム 「デザインの可能性、領域を越えて挑む世界」 「デザインの新エッジ、エンジニアリングの世界」 交流会	講師:川崎 和男(デザインディレクター)、島山 耕治(金属作家) 吉泉 聡(TAKT PROJECT 代表)、武井 祥平(エンジニア/研究者) モテレーター:桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長)	㈱能作 カンパレンスルーム ㈱能作 IMON KITCHEN	
	2018/9/22	オープンHUB Field work A:銅器団地オープンファクトリー見学 デザイン相談サロン 「ビッグデータ時代の地域の可能性」 「布の世界とその表現、可能性」 「関係性のデザイン、顔と発見」 「ロボット制御プログラムとデザイン」 「環境デザインの新提案」	平野 尊治(県総合デザインセンター 主任研究員) 桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長)、岡 雄一郎(県総合デザインセンター プロジェクトリーダー) 澁川 伸一(プロダクトデザイナー)、桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長) 須藤 玲子(テキスタイルデザイナー) 吉泉 聡(TAKT PROJECT 代表) 武井 祥平(エンジニア/研究者) 久保田 善明(富山大学都市デザイン 教授)	高岡銅器団地 県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン	
	2018/9/23	オープンHUB Field work B:㈱能作 「人と地域文化をつなぐ“移動”の世界」 「デジタルアプリケーション時代のものづくり」 「気づき」から「造形」へのプロセス 「富山もようプロジェクト」 「クローキングトーク」	堂本 拓哉(県総合デザインセンター 副主任研究員) ㈱クリエイティブボックス 吉田 真也(プロダクトデザイナー)、窪 英明(県総合デザインセンター 副主任研究員) 松山 祥樹(プロダクトデザイナー)、堂本 拓哉(県総合デザインセンター 副主任研究員) 小柴 尊昭(プロデューサー)、吉田 給美(県総合デザインセンター 主任研究員) 桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長)、岡 雄一郎(県総合デザインセンター プロジェクトリーダー)	㈱能作 県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン	
	2018/10/4	とやまD' DAYS ツアー	㈱ウイン・ディー、㈱ゴールドウイン、㈱能作、県ものづくり研究開発センター、県総合デザインセンター		
	3 クリエイティブデザインハブ 新事業創出支援事業	未来研究会 2018/10/24~25	第1回 未来研究会「5G通信が変える生活」プロジェクト会議Ⅰ/Ⅱ	ゲスト:藤井 陽介(NECネットワークサービスBU新事業推進本部)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン
		2018/11/20~21	第2回 未来研究会「未来を切り開く素材」プロジェクト会議Ⅰ/Ⅱ	ゲスト:吉川 久美子(㈱エムクロッシング 代表取締役)	*
		2018/12/18~19	第3回 未来研究会「機器の進化とCMF」プロジェクト会議Ⅰ/Ⅱ	ゲスト:詫摩 智朗(ソニー㈱ クリエイティブセンター Studio2 総括部長)	*
		2019/1/29~30	第4回 未来研究会「人の集まる空間づくり」プロジェクト会議Ⅰ/Ⅱ	ゲスト:渋谷 勇多(イオンモール 既存店舗企画)	*
2019/2/19		第5回 未来研究会「総括」		*	
4 産学連携デザインワークショップ 4 大学連携デザイン人材マッチング事業	産学連携デザインワークショップ 2018/7/30~8/1	第1回とやまデザイン・トライアルワークショップ 「デジタルモデリングによるモニュメント制作」	企業:㈱ウイン・ディー 大学:金沢美術工芸大学 担当教授:島山 耕治(金沢美術工芸大学工芸科 教授)	ワークショップ:金沢美術工芸大学 見学:㈱ウイン・ディー、武内プレス工業 ㈱、㈱タニハ、県総合デザインセンター	
	2018/8/23~25	第2回とやまデザイン・トライアルワークショップ・公開プレゼンテーション 「工芸の深化」	団体:井波彫刻協同組合 大学:京都工芸繊維大学 担当教授:岡田 栄造(京都工芸繊維大学 教授、KYOTO Design Lab ラボラトリー長)	ワークショップ:南砺市クリエイターラザ 桜の丘 見学:井波彫刻協同組合、井波別院院運泉寺、木彫りの里、トモル工房、㈱能作、野村清室工房、県総合デザインセンター	
	2018/9/17~19	第3回とやまデザイン・トライアルワークショップ 「産業シーズを発展させたプロダクトとブランド提案」	企業:㈱能作、㈱ナンゴ 大学:法政大学デザイン工学部 担当教授:安積 伸(法政大学デザイン工学部システムデザイン学科 教授)	ワークショップ:県総合デザインセンター 企業見学:(一財)五箇山和紙の里、三協立山㈱ 三協アルミ社、富山ガラス工房/富山ガラス造形研究所、南砺市クリエイタープラザ 桜の丘、㈱ナンゴ、㈱能作	
	2018/10/15~2019/1/28	第4回とやまデザイン・トライアルワークショップ 「ギフト用紙下のデザイン提案」	企業:助野㈱、(パツケージ)とうざわ印刷工業㈱ 大学:富山大学芸術文化学部 担当教授:内田 和美(富山大学芸術文化学部 教授)	富山大学芸術文化学部、助野㈱	
成果発表会 2019/2/24	とやまデザイン・トライアルワークショップ成果発表会		ヤフー㈱オープンコラボレーションスペース[LODGE](東京都千代田区)		

名称・日時	内容	備考	場所		
5 アジアデザイン交流事業	ゴールデンピンアワード 2018/8~2019/3	台湾のデザイン賞「ゴールデンピンアワード」出品支援 出品企業:㈱小泉製作所、㈱能作、㈱モメンタムファクトリー・Orii、㈱四津川製作所			
	台湾デザイナーとの商品開発 2018/6~2019/3	台湾デザイナー6組と「越中富山 技のこわけ 着書」の開発を開始 不二堂、DOT design、gridesign studio、STUDIO LIM、TZULAI、YenChen Design Studio			
	販売会 2019/2/23~3/24	「一緒に富山の美带回家吧!!(富山の美しさをお持ち帰りください)」	DESIGN PIN SHOP(台湾台北市)		
	展示会 2018/9/14	KITOKITO TOYAMA 富山展	NOT JUST LIBRARY(台湾台北市)		
	セミナー 2019/2/23	デザイントーク「工芸×デザイン」の時代 「継承と革新・工芸×デザイン」 「台湾デザインセンター」富山県総合デザインセンター連携事業 「地方創生の観点からの工芸の育成」	講師:桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長) 堂本 拓哉(県総合デザインセンター 副主任研究員) Kamara'an×桐山 登士樹	NOT JUST LIBRARY(台湾台北市)	
	ワークショップ 2019/2/24	螺旋塗り箸	講師:武蔵川 剛嗣(㈱武蔵川工房 螺旋師)	NOT JUST LIBRARY(台湾台北市)	
	展示会 2018/8/15~9/16	台湾デザインエキスポ2018 in 台中	台中文化創意産業園区(台湾台中市)		
	セミナー 2019/1/29~3/24	国際デザインフォーラム「デザイナー-未来都市」	講師:大矢 寿雄(県総合デザインセンター 顧問)	スレンダーホテル台中(台湾台中市)	
	6 越中富山お土産プロジェクト	富山お土産プロジェクト委員会 2018/9/5	第34回越中富山お土産プロジェクト委員会 委員:中山 真由美(㈱ファイプロジェクト アートディレクター) 能作 幾代(nousaku店主/チーフソムリエ) 羽根 由(㈱生活ネット研究所 代表取締役 所長) 平島 亜由美(北日本放送㈱アナウンス部 部長) 桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長)	県総合デザインセンター プレゼンテーションルーム	
		2019/3/15	第35回越中富山お土産プロジェクト委員会		
2019/3/4		「作り手を巡る“技”の裏側ツアー」	参加者:飲食店関係者9名	㈱桂樹舎、Shimoo design、富山ガラス工房、㈱中村製作所	
7 富山のデザイン開発力強化事業	技のこわけプロジェクト委員会 2018/10/2 2018/11/6 2018/11/22,26 2019/3/4	第10回技のこわけプロジェクト委員会 第11回技のこわけプロジェクト委員会 第12回技のこわけプロジェクト委員会 第13回技のこわけプロジェクト委員会	委員:下尾 さおり(Shimoo design/木工作家) 渡藤 仁美(D&DEPARTMENT TOYAMA 店長) 能作 幾代(nousaku店主/チーフソムリエ) 眞野 知子(ギフトコンシェルジュ)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン 石瀬の家	
	ツアー 2019/3/4	「作り手を巡る“技”の裏側ツアー」			
	展示会 2018/12/14~2019/3/3 2019/3/18~30	「越中富山 技のこわけ展-富山で見つける“技”の裏側-」富山展 「越中富山 技のこわけ展-富山で見つける“技”の裏側-」東京展	新規参画企業・作家:梅田かんこ、北丸木工所、㈱佐野政製作所、㈱ナガエ、廣瀬給美	D&DEPARTMENT TOYAMA 日本橋とやま館(東京都中央区)	
8 事業普及指導	富山デザインブランド販路開拓事業 2018/5/14~29 2018/6/20~7/24	「富山のチカラ ~夏の暮らしのおそそ分け~」 「富山のおそろわ~豊かな山海の「幸」と風土から生まれた「ものづくり」を~」	三越銀座店/リビングフロア(東京都中央区) GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA(東京都千代田区KITE丸の内)		
	機関誌の発行 2019/3/27	offer46号 平成30年度事業報告			
9 デザイントレンド発信事業	デザイン雑誌情報	日経デザイン、AXIS、comfort、ELLE DÉCOR、Casa BRUTUSなどのデザイン誌を整備し、デザインセンターライブラリーなどで閲覧するなどの情報提供を行う。			
	デザインウェブ開催委員会 2018/4/26	2017年度報告と2018年度事業計画書の承認	富山県民会館 706会議室		
10 富山デザインウェブ2018	富山マテリアルワークショップ2018 2018/10/23	工房見学・金属着色体験	参加者:カーデザイナー、モテラー10組	㈱モメンタムファクトリー・Orii	
	2018/10/25~26	「存在し続けるマテリアル」 「Beyond Glass ガラスの、その先へ」	*	県総合デザインセンター、富山ガラス工房、高岡市デザイン・工芸センター、三芝精材㈱	
	2018/10/26	ワークショップ講評会	*	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン	
	富山デザインコンペティション2018 2018/4/27~7/2	作品募集(素材と加工とデザイン-この先にあるプロダクト) 応募登録・作品シート受付 1次審査、228作品から12作品を選考 2次審査・授賞式・意見交換会 模型を使ったデザイナー12組によるプレゼンテーション・公開審査・授賞式・交流会	審査員:安積 伸(プロダクトデザイナー/法政大学教授) 川上 真季子(デザイナー/ジャーナリスト) 鈴木 マサル(テキスタイルデザイナー) 岡 雄一郎(県総合デザインセンター プロジェクトリーダー)	(公財)国際文化会館(東京都港区) 富山県民会館 304会議室 D&DEPARTMENT TOYAMA	
	2018/7/28				
	2018/10/1				
	デザイン展 2018/10/3~10	富山デザインウェブ2018デザイン展 富山デザインコンペティション2018作品展 富山マテリアルワークショップ2018作品展 富山デザインコンペティション25周年特別展		富山県民会館 ロビー	
	2018/11/15~27			富山デザインコンペティションの25周年を記念して、コンペ参加を契機に国内外で活躍中のデザイナー25名を選抜し、最新作品等を紹介	富山県美術館 TAD gallery
	関連イベント 2018/9/21~11/11	工芸都市高岡2018クラフト展 高岡クラフト市場街 ミラレ金屋町 銅器団地オープンファクトリー 日本遺産サミットin高岡 富山デザインフェア2018 第58回富山県デザイン展	主催:工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会(高岡商工会議所内) 高岡クラフト市場街実行委員会(高岡商工会議所内) 金屋町実行委員会 銅器団地オープンファクトリー実行委員会 文化庁、日本遺産連盟、高岡市、高岡市日本遺産推進協議会 富山市(運営:富山デザインフェア実行委員会) (公社)富山県デザイン協会	高岡市中心市街地、富山市中心市街地	
	報告書発行 2019/2/1	富山デザインウェブ2018報告書			
商品流通支援活動 2018/5/30~6/1	interiorlifestyle TOKYO 2018出展	富山デザインコンペティション2017入賞作品等の展示	東京ビッグサイト(東京国際展示場)		
2018/12~2019/3	富山デザインコンペティション2018入賞作品のブラッシュアップとともに、提出作品の商品化に向けて県内企業とのマッチングやコラボレーション、販売開拓を支援				
11 富山プロダクト選定事業	2018/6/15~8/24(集中募集期間)	県内で企画、製造される品質やデザイン性に優れた工業製品の認定制度「富山プロダクト選定商品」の公募			
	選定委員会 2018/9/5	応募(23社50点(うち再申請10点))された商品の中から19社30点(うち再申請9点)を「富山プロダクト選定商品」として選定。	委員長:桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長) 選定委員:内田 和美(富山大学芸術文化学部 教授)、渡藤 仁美(D&DEPARTMENT TOYAMA 店長)、高川 昭良(高岡市デザイン・工芸センター 所長)、高木善義(公財)富山県新世紀産業機構中小企業支援センター部長)、茂木 新之助(㈱専通クリエイティブ商品本部商品企画室/バイヤー)、岡 雄一郎(県総合デザインセンター プロジェクトリーダー)	県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン	
	選定証交付 2018/10/1		選定企業名:アイオーティカー・ボン、㈱アムテック、ウエルビー ㈱、㈱織田幸銅器、県田 昌浩、㈱小沢野家呉店、㈱駒井漆器製作所、㈱佐野政製作所、三協立山㈱、三協アルミ社、シーカー金属㈱、漆器くにもと、高岡民芸 ㈱、富山プレート、㈱ナガエ、㈱能作、㈱山久美、㈱四津川製作所、㈱リッチェル		
	展示会 2018/10/12~12/9	「富山プロダクト2018展」		D&DEPARTMENT TOYAMA	
常設展	富山プロダクト常設展		県産業高度化センター 展示室		
12 その他	子供デザイン体験教室 2018/4/29	「オリジナルしおりをつくらう」(第18回高岡といて葉の花フェスティバル)		県産業高度化センター 展示室	
	インターンシップ 2018/7/4~6 2018/9/3~7	県立高岡工芸高等学校 デザイン・絵画課 学生3名 受入 金沢学院大学 芸術学部 学生1名 受入		県総合デザインセンター	





■発行日/2019年3月27日 ■企画・編集/オファー編集部 ■発行/総合デザインセンター 〒939-1119 富山県高岡市オフィス  
パーク5番地 TEL 0766-62-0510 FAX 0766-63-6830 ホームページ [www.toyamadesign.jp](http://www.toyamadesign.jp) ■編集長/桐山登士樹  
■編集/玄千賀子 吉田絵美 ■クリエイティブディレクター/加藤嘉一郎 ■デザイナー/氷巻さゆり ■ライター/中谷裕也 ■撮影  
/道林伸一 本田万里 ■印刷・製本/とうざわ印刷工芸(株)



**富山生まれの、デザインのある暮らしへ**  
富山県内企業のデザイン性・機能性に優れた商品を紹介しています。  
[toyamadesign.jp/products/](http://toyamadesign.jp/products/)